

第3回

「地域の福祉 よりよく生きるために終活も考えよう」

～人生の終（おわり）方～

平成29年9月24日

・講師：栃木市役所保健福祉部地域包括ケア推進課長

しゅなが まさひろ
首長 正博 氏

福祉をひらがなで考えますと「ふ」つうの「く」らしができる「し」あわせとなり、一度きりの人生を「自分らしく、よりよく生きる」ことだと思います。「平均寿命」と「健康寿命」という考えがあり、これには大きな個人差が現れます。

終活・エンディングノート等が話題になっていますが、大切なのは、自らの死後のことを考えることにより、これからの人生をどう生きるかを考えることで、その延長線上に死があると考える方が適切です。



○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・この題での講話は何回も聞いたが、今回の講話は本当に深みがあり、聞きに来てよかった。
- ・認知症の人と言っても、本人の話をじっくり聞くことは、大事ですね。忘れないようにしようと思いました。
- ・今日行くところがある（きょういく・教育）と今日用があること（きょうよう・教養）。これからもこの言葉を大切に生きていこうと思います。